【功績の概要】

須藤　礼子（すどう　れいこ）

〔音楽〕

昭和 17(1942)年９月２日生　（満 84 歳）
宇都宮市在住

氏は、大学在学中に合唱活動を始め、卒業後は県立高等学校の音楽教諭として教鞭を執る中で合唱部の指導にあたり、県内団体としては初となる合唱連盟コンクール全国大会出場を果たし、その後も文部科学大臣奨励賞を受賞する等、手腕を発揮されています。

自らも創立に携わった栃木県合唱連盟では、当初から役員として参画され、大会運営等に尽力する傍ら、広く県内中学校・高等学校の合唱部を指導し、若者の育成に努め、多くの学校を全国大会に導くとともに、一般の合唱団体の指導にも取り組み、栃木県合唱祭での合同合唱や、合唱連盟 50 周年記念演奏会などの企画運営にも携わり、県内の合唱文化の向上に寄与されています。

氏は、昭和 55（1980）年に開催された「栃の葉国体」及び令和４（2022）年に開催された「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」という２つの大会を通じて合唱隊のとりまとめ役を務めるなど、県を挙げた大規模イベントの成功にも貢献されています。

また、アメリカインディアナ州エヴァンズヒルとの交換交流において、県立高等学校の管弦楽部・コーラス部による合同公演を行うなど、欧米やメキシコなどの海外音楽祭等にも多数招聘されるとともに、日本の伝統芸能を伝える日光東照宮流鏑馬メキシコ公演でのコーラス演奏や、ウィーン世界青少年音楽祭でのウィーン大賞（グランプリ）の受賞など、海外でも活躍されています。